

銀の鬼

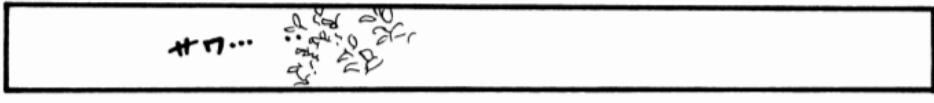
〈第五卷〉

茶木ひろみ

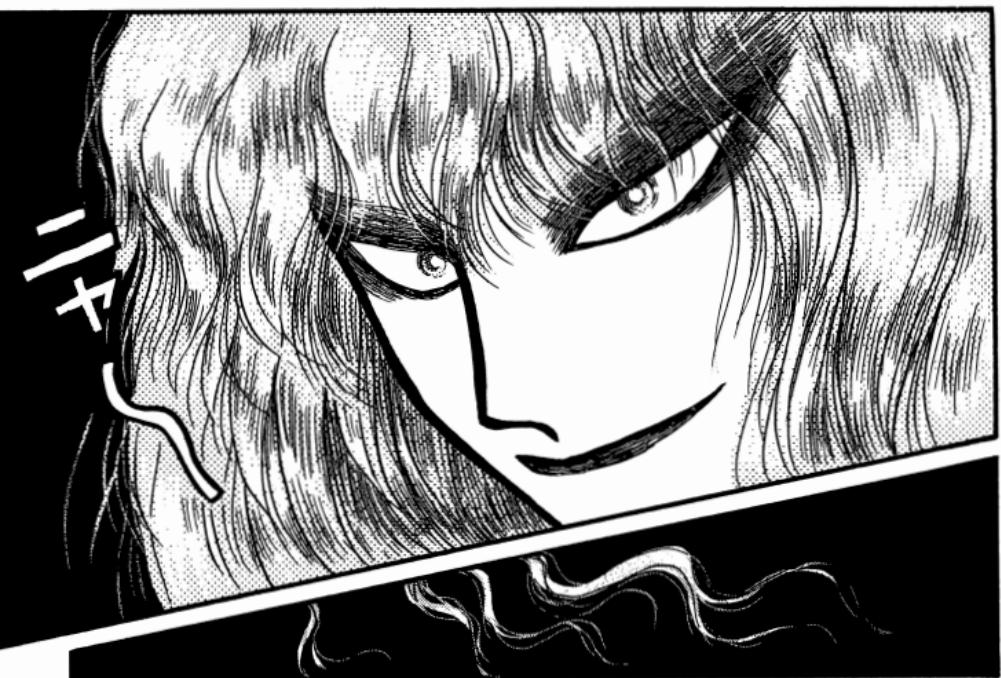








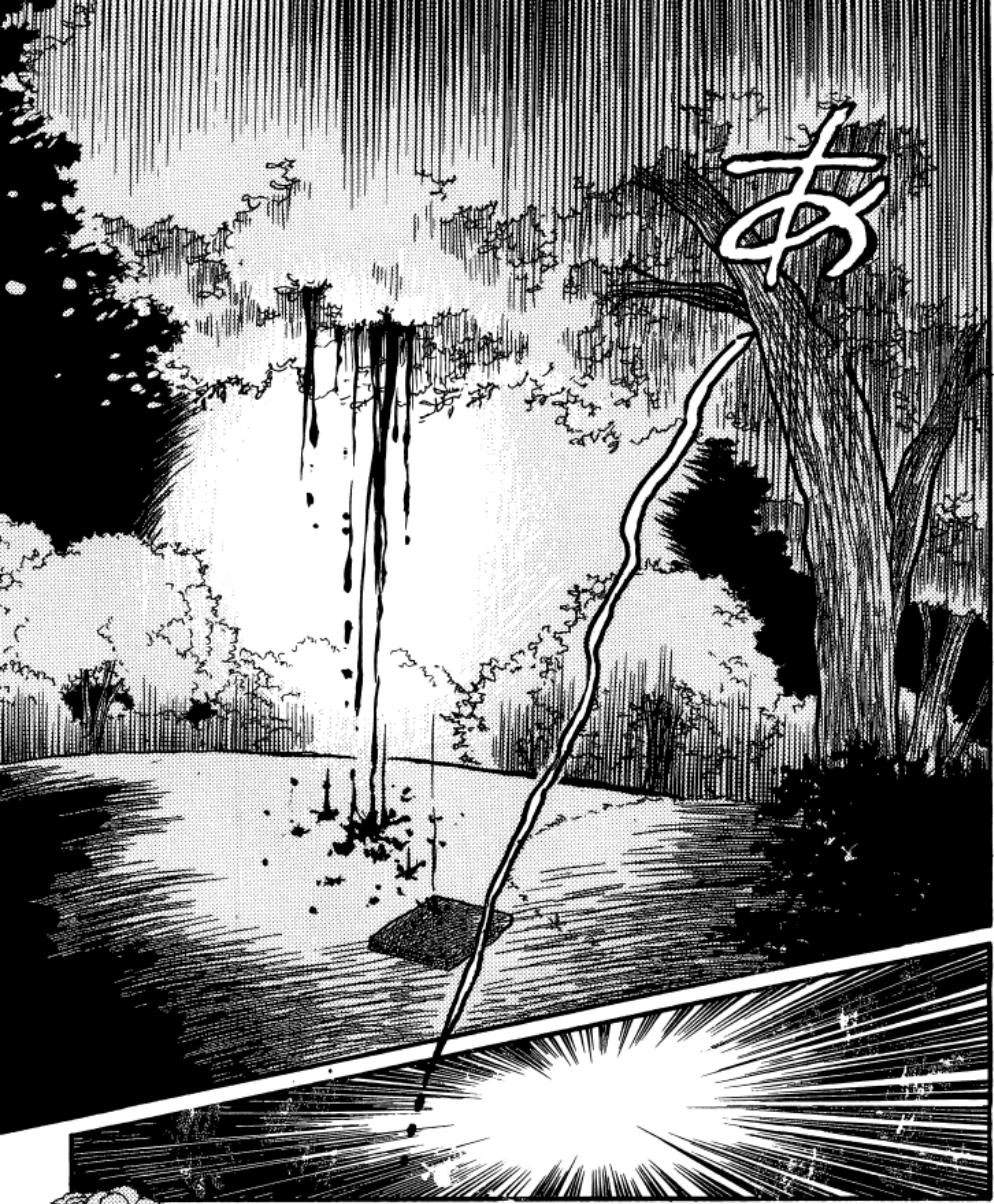


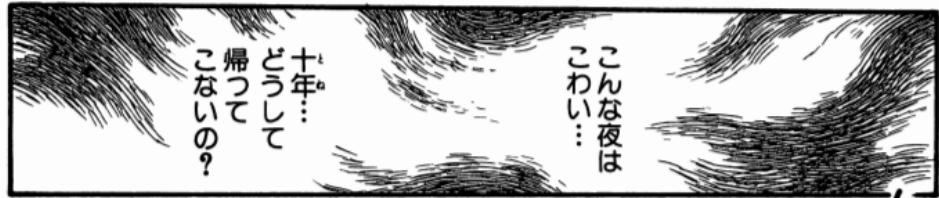
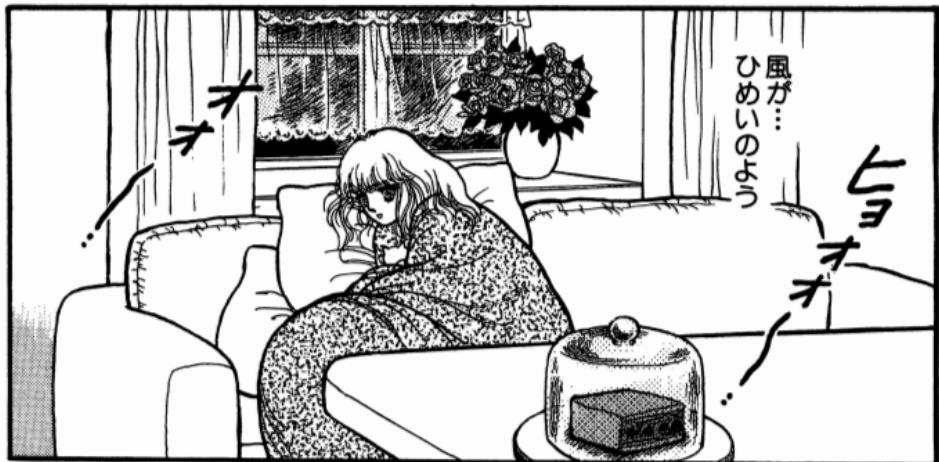


あ
…
あ

うわあ
ああああ







いるのに…
目の前にいる
いの前に

いま…あれの
目の前にいる

なんなんだ
こいつ…
やつぱり野犬じゃ
ながつたぞ

こいつは…
母さんを殺した
あのときの
銀のばけものだ

この声…



死ね！



しぶとい
しふこう
やつだな



こんなこと
あつていい
のか!?

いま
あこつてる
ことは現実
なのが!?

これは
なんだ? :

なぜ
こんなめに
あわされなきや
ならないんだ

あれが
こいつに
なにをした

こんな
鬼みたいなこと
できるなんて



鬼

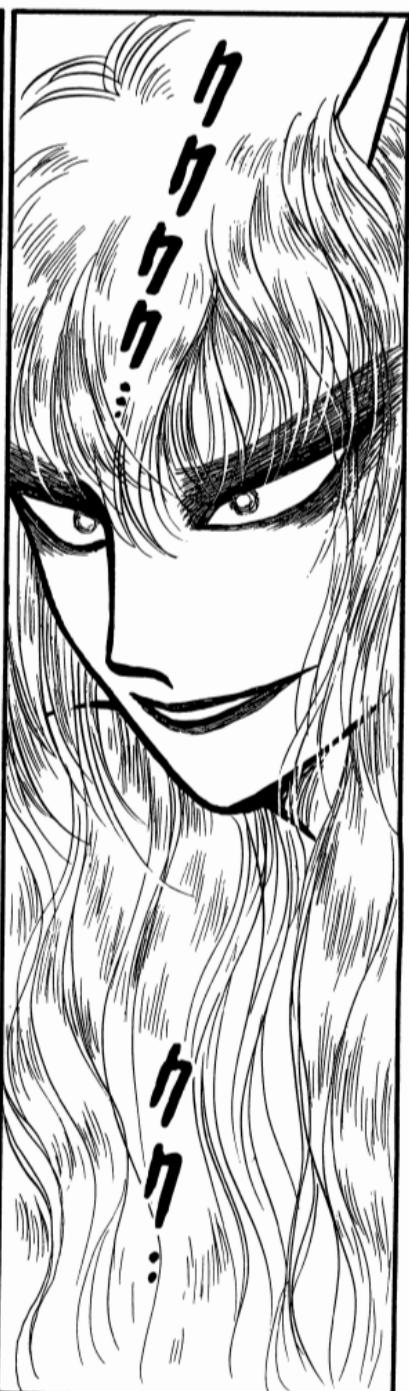
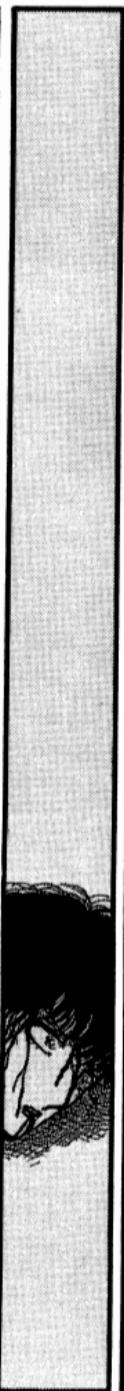
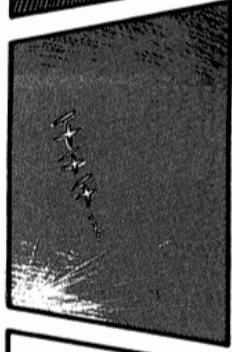
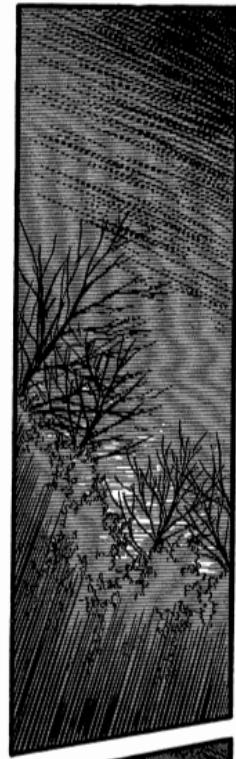
そうだ
ツノもある

お…に…

おに…

鬼…
なのか
!?









十年...さん

!!

そうだよ

おれは鬼だよ

これは...

これは夢か?

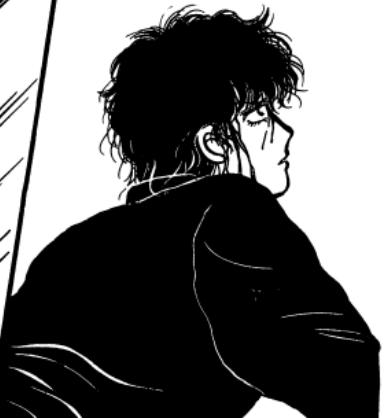
昼はこうして
人間の姿をして
人間のふりをして
生きてるから
わからなかつた
だろう?

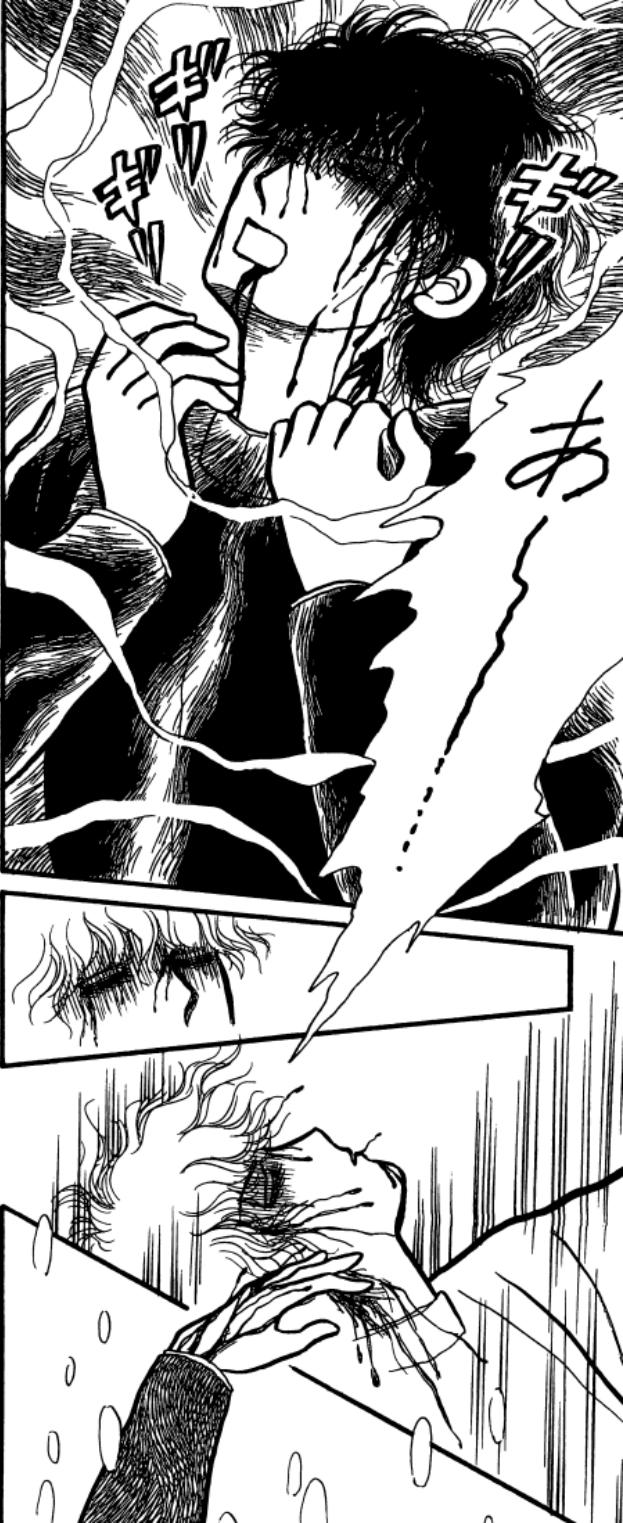
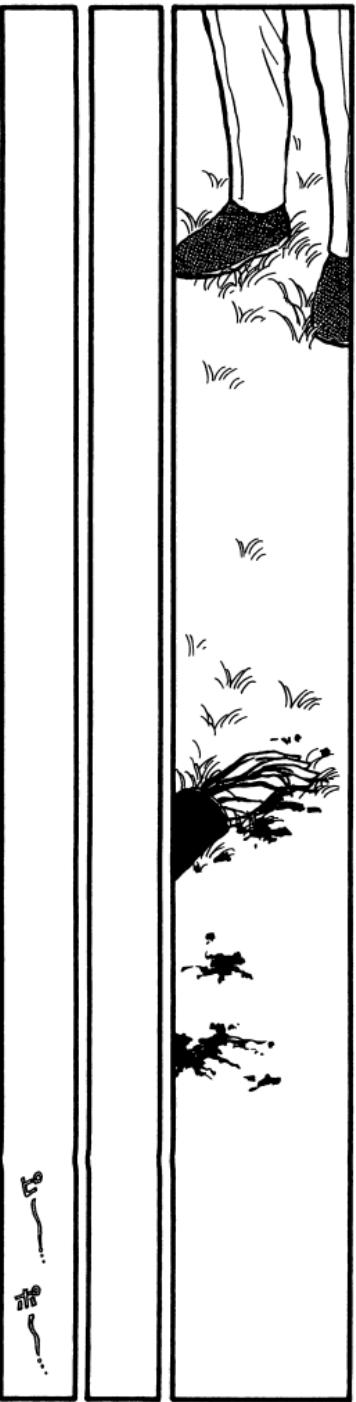
とどめだ
流也

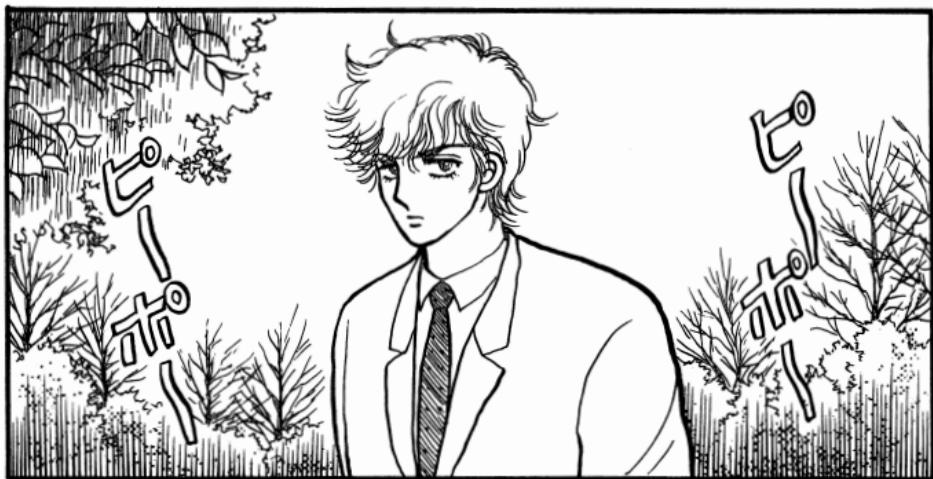
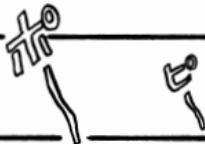
だが人間の
姿になつても
人は殺せるぞ

う...あ

あ...







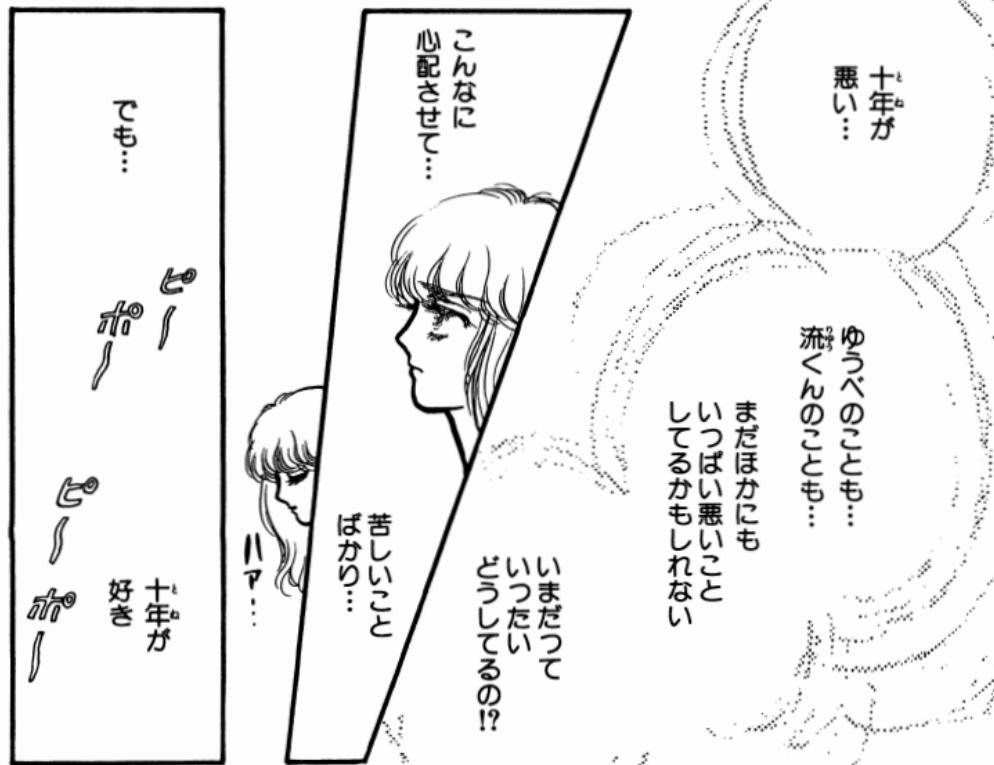
え?

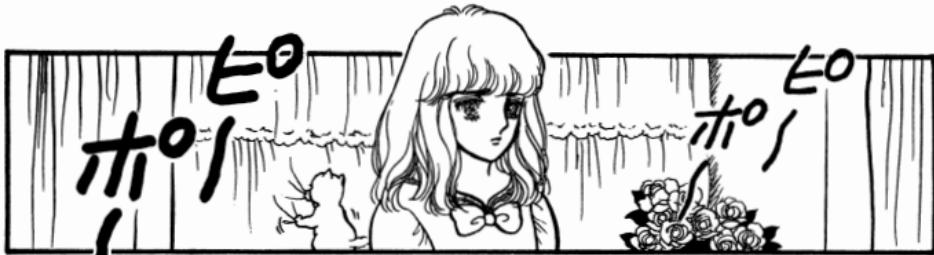
夢を
みてた

かなしい
夢。
だつた

十年と…
ひきはなされる







ほんの
ちょっとでも
わたしから
れしゃら
ちやだめ

